



仙の安をいふ

片岡

昔は雪のうきをわけて湖海 車来
 石の籠やゆふふとくは落玉 邦文
 雪の底をふれふふや月お海流 高岸
 鳥は毛をふり喰ゆくさき海流 此郎
 傘肩をてまのねいつこえし生ん 白曉
 さはばや田原のくは沈むるさ 杉月
 大雪やをくらけり考のあつらひ 雲碓
 梅うね引のこしこふ柳水 柳水
 ○
 吹とれてあし出たりおはる月 林吟
 かきろふや火のかき井立はゆる 麻門
 枝の疎空にむらむらねのくさ 菊付

仙居

言及子れし